

定形俳句、非定形俳句

山口青邨

俳句はその構成上から定形と非定形とに分けることが出来る。分類上の重量から言へばこれらは一対一であるが、實際は定形俳句の作家が壓倒的多數を占めてゐる。

この定形俳句といふのは、むかしから傳統的に來てゐる形式を踏襲するものであつて、五・七・五の調子をもち、季題を必ず入れる俳句である。これに對し非定形俳句といふのは在來の傳統の形式を破つて他の方法で新しさを期待するものである。五・七・五の調子ではなく、わづか五字でもよいし、又四十字でも五十字でもかまはない、それに季題を入れても、入れなくてもよい、無關心なのである。

この非定形派のうちには五・七・五を否定し、季題を無視するといふ兩方を採用する人達と、形は五・七・五としておき、單に季題を無視するといふ人達がある。

これらのことは、それらの人達によつて、文學的根據をもつて、主張せられてゐるのであつて、初學者でも熱心な人はさうした文獻も一應は讀んで見る必要があらう。

有季俳句、無季俳句といふことは、結局、季題論といふことになるのであつて、前にも述べた「季題の効果」といふことに對して、無季派の人達は「季題の不合理性」を強調するわけである。

俳句界の諸流を大きく分ければ、定形俳句派と非定形俳句派となるわけである。然しさつきも言つたやうに定形温に屬するものが壓倒的に多く、流派の問題もこの方に多い。花鳥諷詠俳句といふことに對して、生活俳句だとか、人生俳句だとかを主張する派もある。——然しこのことに就ては、必ずしも納得のゆくことではなく、花鳥諷詠俳句の内容をよく吟味して見れば、生活俳句と違はないものがあつたり、又、生活派の作品に花鳥諷詠のものと異ならないものがあつたりして、結局、その主張するところの意味の多少の濃淡が、その分派を生ずる理由になるのだが、大抵はその一つのグループの主宰者の性格趣味好尚によるもののやうである。